

令和 8 年高校生議会 代表質問通告表

順	質 問 事 項	質 問 者
1	○ 高校生や若者が将来も佐渡市で暮らしたいと思えるまちづくりについて 佐渡市では人口減少や若者の市外流出が大きな課題となっています。私たち高校生の中にも、進学や就職を機会に島を離れている人が多くいます。一方で、「将来は佐渡に戻ってきたい」と思っている人も少なくありません。 そこで、お尋ねします。 1 佐渡市では、高校卒業後に島を離れた若者が、将来佐渡へ戻って働き、暮らしたいと思えるように、どのような取組を行っていますか。 2 佐渡市では、市内の企業や観光事業者などと連携し、高校生が地域の仕事を知る機会をさらに増やす考えはありますか。また、インターンシップや職場体験を充実させる予定はありますか。 3 高校生の意見を市政に反映させるために、高校生と市長や市職員が意見交換できる場を定期的に設ける考えはありますか。 私たちは、若者の声を直接市政に届ける機会が増えれば、「自分たちのまち」という意識が高まり、将来佐渡に戻って地域に貢献したいと思う人も増えるのではないかと考えています。また、私たち高校生も世界遺産や佐渡の魅力を発信する活動に積極的に参加したいと考えています。そのような活動を後押ししていただけますか。市長のお考えをお聞かせください。	佐 渡 総 合 高 校 齋 藤 颯 太

令和8年高校生議会 代表質問通告表

順	質 問 事 項	質 問 者
2	○ 佐渡市からの中高生への情報発信について 私たちのグループは、高校生議会への参加のために、佐渡市の課題について考えました。佐渡は人口減少・過疎化・少子高齢化・交通の便の悪さといった、様々な問題を抱えていることは、すぐに思いつきましたが、その課題に対して佐渡市がどのような取組をしているかについては、誰もわかりませんでした。私たちは、ここに大きな問題があると考えました。そこで、高校生が佐渡市の取組についてどれくらい知っているのかを確かめるために全校生徒にアンケートを実施しました。 その結果わかったことは、高校生の佐渡市の行政への関心の低さです。市長の名前を知っている生徒は約50%、市議会議員の名前を一人も知らない生徒が約80%いました。また、「市報さど」については、約80%の生徒が一度も見たことがないと回答しました。 そこでお尋ねします。 1 中学生や高校生に、しっかりと情報を発信し、佐渡市の取組を知ってもらうことで、若い人の政治への関心が高まり、地域への愛着も増して、若い人から佐渡の活性化のための新しいアイデアが生まれてくると思いますが、このアンケート結果についてどのように受け止めますか。市長の感想とご意見をお聞かせください。 2 中高生への情報発信について、中高生を対象としたホームページを作ることも考えましたが、興味や関心のない生徒は、結局見ないだろうという結論になりました。情報はここにあるから見て下さいということでは、現状は変わらないと思います。 そこで、私たちは、中高生向けの「市民だより」を年に数回発行して、学校で先生から配布してもらう取組を提案します。部活動に関する記事や各学校の学校自慢などを載せて、中高生が楽しく読めるものにして、合わせて、中高生にも知ってもらいたい佐渡市の取組を紹介します。市議会議員のコーナーや、中高生からの佐渡市に対する質問のコーナーも面白いと思います。是非、検討していただきたいと思います。 以上が私たちのグループの質問と提案です。よろしくお願いします。	羽 茂 高 校 小池 蒼 笠木 優那 金子 瑛花 鈴木 夕凜

令和8年高校生議会 代表質問通告表

順	質 問 事 項	質 問 者
3	○ 「専門学校と通信制大学を核とした、若者が育ち合う佐渡づくり」 — 第一次黄金期を地域で育てる新しい若者政策 — 佐渡市では高校卒業後の島外進学・就職が多い一方、伝統文化と環境福祉の専門学校には全国から若者が集まってきており、島内で学び生活する機会が生まれています。高校生へのアンケートでは約8割が「将来佐渡へ戻りたい」と思っているものの、現実には、多くの若者が佐渡へ戻る状況とはなっていません。この現実には「若者が佐渡を嫌って島を離れる」のではなく「戻りたい」という思いを実現できる環境が十分に整っていないことを示しているのではないのでしょうか。これまでは移住・就職・起業支援といった一人ひとりを対象とする施策が中心でしたが、離島の人口減少という課題には十分とは言えません。そこで、次の提案をいたします。 若者同士が地域で出会い、学び合い、役割を持ちながら成長できる環境を地域全体で育てる政策へ転換することです。中心となるのは、伝統文化と環境福祉の専門学校と、放送大学をはじめとする通信制大学です。 専門学校は学習だけでなく祭り・地域行事・世代間交流を通じて地域の一員としての役割を体感させ、卒業後も佐渡とのつながりを保つ「交流人口」を創出します。 四年間を「第一次黄金期」と位置づけ、行政・学校・地域住民・企業・高齢者が連携して、学びと地域参加を往復する環境を意識的に設計します。これにより、専門学校生・通信制大学生・地元高校卒・Uターン・Iターンの若者が互いに刺激し合い、高校生の「戻りたい」意欲を現実化する土壌をつくります。 最終的には、若者を奪い合うのではなく、「この島で過ごした時間には意味があった」と実感できる地域づくりを目指し、伝統文化と環境福祉の専門学校と放送大学をはじめとする通信制大学等を単なる教育機関としてではなく、佐渡の若者を育てる中核インフラとして位置づけ、地域全体を「校舎のない学びの場」として活用することです。 この環境が整えば、高校卒業後に島外へ進学しても「佐渡で学び続ける」選択が生まれ、外へ出た若者も佐渡との関係を保ち再び戻りたいと思える土壌が地域に育つと考えます。 若者政策は、単に若者を島に留めることを目的とするのではなく、島内外を問わず個人が地域とのつながりを育み「佐渡で過ごした時間には意味があった」と実感できる地域をつくることであり、このように若者一人ひとりがつながりを持ちながら学び続け、自らの役割を育てられる環境を整えることこそが、佐渡の未来を支える持続可能な地域づくりにつながると考えます。 以上が、私たちの提案となります。市長よろしく申し上げます。	明 誠 高 校 山下 望杏 児玉 優斗

令和8年高校生議会 代表質問通告表

順	質 問 事 項	質 問 者
4	○ 佐渡の観光の活性化について 一昨年、佐渡金銀山が世界文化遺産に登録され、次第にコロナ禍前のように観光客が増えてきていると実感しています。また、夏には全国そして海外からの観光客が増えていることが、公表されているデータからも分かります。 しかし、金銀山や朱鷺、たらい舟を目当てに来島している人が増加している一方、他に全国的、世界的な観光名所が少なく、さらなる観光資源を生み出していかなければならないと考えます。さらに、移動に時間がかかってしまったり、朝食などがとれる飲食店を探すのが不便であるという課題も見受けられます。そこで私たちは佐渡金銀山以外の観光スポットをさらに増やしたり、飲食店の探しやすさの向上のための試みについて考えました。 一つ目は佐渡の自然を活かしたマリンアクティビティの導入です。夏には多くの観光客が来島しています。そこで夏だからこそ可能であり、かつ佐渡の自然を有効活用したマリンアクティビティを導入することを提案します。シーカヤック、SUP、スキューバダイビングなど既存のマリンアクティビティがあるではないかという意見もあるとは思いますが、あまり一般的に行われていないフライボードなどの珍しいアクティビティを行うことで、それを目当てに来る観光客が増えると思います。さらに種類を充実させること、また開催場所を各地に置くことで、日本の縮図と言われる佐渡島の地域ごとの自然の違いを発見することによって、さらに佐渡の魅力をアピールすることができると思います。また、地域ごとに配置することによって、観光客の移動時間軽減にもつながると考えます。 二つ目は佐渡の飲食店をまとめたグルメナビを作成し、一般公開することです。今のまま、金銀山やたらい舟を中心に観光客が集まってしまった場合、一部の店舗にお客さんが集中してしまい、「食事難民」が出てくる可能性があります。さらには開店時間が短く、開いていて空いている店を探すのが一苦勞です。また、佐渡に来たからには、全国チェーンやコンビニではなく、できる限り佐渡の食に触れてもらいたいという思いもあります。そういったことから佐渡の飲食店をまとめたアプリやサイトを作成し、有名店から穴場のお店まで網羅できるようにすることを提案します。佐渡には山の中のお店や路地にある隠れた飲食店がある印象です。時期が限られますが、対面で空きのある店舗を案内しているエリアもありますが、こういったアプリやサイトを作成することで観光客のみならず地元の人も飲食店を再発見するきっかけになり、また、多言語で作成することで海外からの観光客にも活用してもらえと考えます。 以上の提案によって、さらなる観光客の増加や佐渡の満足度アップにもつながっていくと考えますが、佐渡市として、今後の佐渡の観光をどのように盛り上げていこうとお考えでしょうか。 市長のご意見をお聞かせください。よろしくお願いします。	佐 渡 中 等 教 育 学 校 前 嶋 優 羽 静 間 舜 濱 崎 朱 莉

令和8年高校生議会 代表質問通告表

順	質 問 事 項	質 問 者
5	○ 佐渡の人口減少を抑えるための支援策について 私たちは、佐渡の人口減少に注目して佐渡の未来を考えてみました。 佐渡市の人口は、令和8年3月末現在46,188人となっており、毎年約1,200人ずつ減少しています。そして、近年は死亡数が出生数を上回ったり、転出数が転入数を上回ったりする傾向が続いており、人口減少の加速化がみられます。私たちは人口減少を抑えることが佐渡の様々な課題を解決するための根幹になると考え、佐渡市の施策について調べました。 佐渡市の資料を調べたところ、子育て支援策としてお米の支援や給食費の無償化・負担軽減、労働力確保のための施策として就職支援金などの制度があることが分かり、経済的支援や環境づくりなどの点で幅広い体制が構築されていると感じました。 その上で、私たちは佐渡市の平均賃金が他の自治体と比較して低ければその分を補助し、また経済的な支援策をより充実することで、「将来にわたって魅力的で住み続けたいと思う島づくり」につながるのではないかと考えました。 そこで、お尋ねします。 1 佐渡市で働く人々の平均賃金や所得は、他の自治体と比較して差はどのくらいあるのでしょうか。もし低い場合は、他の自治体並み、もしくはそれ以上に補助することは可能でしょうか。確かに、職種や家庭状況によって差があり、一律に支給するのは難しいですが、私たちは、一定の所得が確保される安心感こそが、住みたいと思う魅力につながると考えました。 2 私たちは、経済的支援を行うのであれば、保育・教育や、島内の交通に対する支援が効果的ではないかと考えています。そこで、現在、保育・教育や交通に関する支援策としてどのようなものが行われているのか、またその実際の効果についてお聞きしたいです。 そして、私たちは以下のように考えました。 まず、保育・教育は現在もお米の支援や給食費の無償化などの支援が行われていますが、さらに保育費や学費の無償化にも支援を広げるべきだと考えます。支援が広がれば、親から子へ世代を超えて、「子育ての島」という良いイメージが引き継がれていくと考えます。それにより、佐渡で育った人が一度進学等で島を離れても、結婚等でまた佐渡へ戻って来る人が増え、また佐渡出身ではない人も、負担軽減の情報を耳にして島にやってくる効果が期待できます。転入者が増えることは、文化や自然、人の温かさなどの魅力に住んでみて気づく人も増え、佐渡のPRにつながるなど、さらなる効果も期待できます。 次に、島内の交通に対する支援とは、バスの増便やレンタカーの増加などによって交通の活性化をめざすものです。佐渡は、日本の中で4番目に広い島であり、その分観光地や各地域に行くための交通のハードルが高いともいえます。最近は公共交通機関の利用者減少に伴うバス運賃の値上げなど、さらに住民や観光客にとって厳しい状況が続いています。 そこで、私たちは、観光客の需要が大きい路線のバスの増便と、住民、観光客ともに利用できるレンタカーの増加および利用の負担軽減を行うべきだと考えました。駐車場がなくても手軽に島内を移動できる交通手段やその拠点ができれば、観光客にとっては効果的に島内を巡ることができ、転入者にとっては自家用車や居住地の駐車場がなくても、日常生活において買い物や移動に利用できるため、より住みやすくなる環境につながると考えます。 以上が私たちのグループの質問と意見です。佐渡の豊かな未来のために、私たちにできることをこれからも考え、行動していきたいです。よろしくお願いします。	佐 渡 高 校 2 学 年 本間 尊 古屋野ルカ 藤井 哲人